



こんにちは

# 村田 けい子

です

みなさんのご意見・ご要望をお寄せ下さい。フェイスブックやっています。  
移動事務所 090-9144-

2020.1.31  
№236

発行/日 2868 353産党立科町議会議員 村田桂子 立科町塩沢1483 ☎0267 (56)

1月下旬には、<sup>2868</sup>長和町議会／上田広域議会議員／東御・小諸・上田市議会／など、立科町がかかわる連携議会での研修会が目白押し。有意義な研修でした。その様子をお知らせします。

## 「環境にやさしい農業と福祉の連携について」



1.23 上田地域市町村議会研修会

長野大学社会福祉学部  
准教授 合田 盛人氏

慢性的な人手不足の農業分野に、障がい者に参加してもらい、農業経営の発展と共に障がい者自身の自信や生きがいの創出で、社会参画を実現できます。福祉的な立場では自然農法(無農薬・伝統野菜・連作)を実践することで持続可能な農業の展開が可能となります。

また、福祉従事者はこうした手間暇かけた農作業を体験することで、「非効率的なことが決して悪いことではない、非効率的なところに、人の繋がり、新しいアイデアなどが大事なものがあつた。これは障がい者支援の中に活かされる」など、人のつながりの重要性や人間性の回復など得るものが大きく、さらに発展する可能性・重要性が報告されました。

農業は障がいを持つ人だけでなく、引きこもりの方、高齢者・子どもなど、それぞれの人の体力に合わせたさまざまな仕事があり、それぞれの方のペースに合わせて進められます。農業の持つ「命を育てる」本質が人を育てるのだと感じました。

## 「手話言語条例はコミュニケーションのバリアのない社会をつくる」

長野県聴覚障がい者情報センター  
上嶋 太氏と  
手話通訳士 山川 理恵氏



1.27 小諸・立科・東御市議会議員交流研修会では手話言語についての研修が行われました。

身体障がい者は全国に358万人、うち聴覚障がい者は約35万人。1割となります。駅や役場のアナウンスや避難所での情報伝達は「

音声のみ」。聴覚障がい者には重要な情報が伝えられないことが多いこと。

テレビのニュースでも字幕がつけられるようになったが運動の成果であること。駅のエレベーター・転落防止ドアなどは車いすや視覚障がいの皆さんのバリアを取り除いたものであること。など、社会のバリアを取り除くことが、障がいのない人にとっても暮らしやすい社会を作ることになると力説されました。手話言語条例は長野県はH28.3に制定、佐久市では県内市町村初(H29.12)だが、すでに全国では22道府県8区218市43町1村に及ぶ。この条例を制定すれば、すべての公的な場所で手話通訳士の配置が必要となりますし、議会の中継でも字幕や手話通訳が必要となります。

### 延期のお知らせ

2月22日に予定していた‘20躍進のつどいは、様々な理由により、延期します。予定されていた方には、本当に申し訳ございません。

また、お知らせします。



### 紙で作ったお花

佐久創錬センターの入り口の壁には、佐久市内でのイベントを紹介する写真と共に、紙で作ったお花や工作物が飾られています。ピンクと水色の2つがあり、直径30cmもあろうかという大きなもの。一つの折り紙で裏は白、表は水色の折り紙を上手に切り込みを入れ折り返して立体的に仕上げてあります。見事な技です。感心しました。

今週のパチ



日本共産党第28回党大会の 来賓ごあいさつ より  
素晴らしいご挨拶でしたのでご紹介します。

(日本共産党のホームページより)

立憲民主党国対委員長 安住淳さん

## 縮まった距離 その先に政権

山宣こと山本宣治は治安維持法の改正に反対し、1929年に開催された帝国議会での反対演説を準備していた折、右翼の男に刺殺されました。山本宣治は1928年の第1回衆議院普通選挙で京都2区から初当選しました。

昭和初期の日本は軍国主義に進み、言論は弾圧され自由は許されず、多くの人々が貧困にあえぎました。山本宣治は、社会の片隅に追われた人々のために命を燃やし、政治家としての人生を全うしたのです。

「山宣ひとり孤塁を守る。だが私は淋(さび)しくない。背後には大衆が支持してあるから」。この山本宣治の言葉は大山郁夫先生が書き残しました。そして今、日本共産党の国会控室に掲げられております。この書の写しが、穀田国対委員長を經由して私の議員会館にも飾ってあります。

確かに皆さんと私に個々の政策、考え方について見解の相違はあります。しかし10年前、5年前、選挙協力が本格的に始まった3年前、さらに今日と、その距離はグンと縮まりました。

失礼を顧みず申し上げるならば、そびえたつ山からようやく皆さんに降りてきていただいた。同時にわれわれも、常に弱者に寄り添う視点を持ち続ける政治姿勢を、皆様から教えられてきました。

今後お互いの距離をさらに縮めていき、国会運営や国政選挙で一体感のある協力をしていきましょう。そうすれば、自然とその先に政権が見えてきます。

今日、安倍1強政権の中で平和憲法の理念が捨て去られ、集団的自衛権の一部行使が容認されました。「桜を見る会」や森友・加計事件に見られるように、長期政権の弊害が見られます。格差社会も進み、都市と地方の格差も拡大しています。

平和で公正で平等な社会が目の前で崩れ落ちていく姿を、われわれは座視するわけにはいきません。山本宣治が貫いた、常に大衆とともに生き大衆のために立ち上がる信念を胸に刻み込みながら、皆さんと一緒にたたかっていきたいと思えます。(2020年1月15日しんぶん赤旗電子版)